

山形大学

【N013 山形大学】

	山形大学 農学分野
学部等の教育研究 組織の名称	農学部（第1年次:155） 大学院農学研究科（M:48）
沿革	昭和22（1947）年 山形県立農林専門学校設置 昭和24（1949）年 山形県立山形農業大学設置 昭和24（1949）年 山形大学農学部設置 昭和45（1970）年 山形大学大学院農学研究科設置
設置目的等	<p>山形大学農学部・農学研究科の母体である山形県立農林専門学校は、官立旧制専門学校として昭和22年に設置された。</p> <p>新制国立大学の発足時には、山形県立農林専門学校は、昭和24年に新制山形県立山形農業大学となった後、同年山形大学農学部として承継された。</p> <p>昭和45年に、高度専門職業人養成を目的に農学研究科が設置された。</p> <p>最近では、平成22年に、専門教育の充実及び「広義の農学」の諸課題を総合的に捉え実践する目的で、生物生産学科、生物資源学科、生物環境学科の3学科を改組し、食料生命環境学科の1学科を設置した。</p>
強みや特色、 社会的な役割	<p>山形大学農学部は、我が国有数の稲作地帯であり、朝日連峰を望む豊富な水と森林資源に囲まれた庄内平野に設置されている。農学、生命科学、フィールドサイエンス等を学ぶ最適な条件の下、21世紀における諸問題の解決、資源循環・環境調和型社会の創生に取り組む人材育成を軸とし、地域や社会の発展に寄与することを目指し教育、研究、社会貢献に取り組んでおり、以下の強みや特色、社会的な役割を有している。</p> <p>○ 1年次に基盤教育科目と6コースの専門基礎科目を幅の広い視野に立って学習し、2年次以降は各コースで開講する特色ある専門科目を学習することで、農学の持つ多面性と専門性の双方に対応できる複眼的で総合的な判断力やバランス感覚を有する人材を育成する。また、多様化・複雑化した社会の要請に対応できる高度な専門的知識と技術を有し、研究、調査、開発といった創造的な事業に従事するための実践的な能力を有する高度な専門人材育成の役割</p>

を果たす。

- 平成22年度に3学科を1学科に改組し、平成25年度の完成年度を経て更にカリキュラムの内容を充実させる。附属施設での日常の実習や農家体験実習等の実践的カリキュラム、サマースクールや国際フィールド協力論等の国際性を身に付けさせるカリキュラムによる特色ある教育を進めてきた実績を生かし、地域・関係業界で即戦力として活躍でき、かつグローバルに活躍できる農学系人材を育成する学部・大学院教育を目指して不断の改善・充実を図る。
- 山形県の在来作物の高度化利用、里山生態系の新しい管理システムの構築、21世紀の環境保全型農業技術開発、自給飼料による畜産物の高付加価値化技術の開発等をキーワードとしたプロジェクト研究の実績を生かし、地域農産物の生理機能・有効成分、再生可能エネルギー資源等を加えたプロジェクト研究を推進し、地域社会の創生や我が国の農学の発展に寄与する。
- 山形県をはじめとする関係自治体の政策審議会等への参画、地元自治体と連携した食文化創造都市、森林文化都市の構築や枝豆の優良品種の開発及び品種登録、地元シェフや「食の都庄内」づくりとの連携による地域在来作物の保全及び地産地消の推進、地元企業とのビジネスマッチングや西洋ナシ枝成分を利用した化粧品の開発等、地域社会に貢献してきた実績を生かし、山形県を始めとする周辺地域の農林業、食品産業の振興に寄与する。
- 在来作物の社会的認知度を高めるための「おしゃべりな畑」、農業者及び支援者のスキルアップを目的とした「やまがた6次産業ビジネス・スクール」、再チャレンジプログラムや大学院への社会人受入れ等の実績を生かし、社会人の学び直しを推進し、地域の農林業及び6次産業化の発展に資する。
- 国際協力機構との連携による短期及び長期受入れプログラムを通じ、グローバル化を促進する。また、スーパーサイエンスハイスクールや県教員組織との連携による地域の小中高生の理科教育と農林業・農山村理解に寄与する。